

樹木医として

東邦レオ株式会社 Green×Town事業部/樹木医 中谷 美紗子

樹木医になろうと思ったきっかけ

私は24期(2014年)、大学院2年生の時に樹木医になりました。私が所属していた研究室は神戸大学院農学研究科の「森林資源学研究室」、研究テーマも樹木の生理に関するものであり、学部に入學して間もない頃から樹木をはじめ何か生物に関わる仕事がしたいと考えていました。ちょうど研究室に入る同じ時期に神戸大学が樹木医補資格養成機関の登録を受けました。きっと自分に必要になる資格だと思い、是非この機会を活かそうと樹木医補を取得しました。間に研究活動を経たあと、就職活動を終えて進路も決まった大学院2年生の4月末に、残りの学生生活1年の間で樹木医の資格を取得しようと思い試験勉強を始めました。

試験について

就職活動を終えた2年生の4月末に『最新・樹木医の手引き』を購入し、樹木医試験のための勉強を開始しました。試験の対策の基本は、この樹木医の手引きと過去問題集を始めから終わりまでただただ読み込んで理解することに努めました。記述試験対策としては、その当時話題にのぼる機会の多かった樹木病害や森林の獣害について、その因果関係や対策についての課題などを正しく理解しておくことを念頭において調べていました。一次試験の対策から筑波での2週間の研修を終えるまで、同じ年に樹木医を取得した研究室の同期と協力しながら進めていました。これは自分にとって大変心強いことでした。一緒に樹木医を目指し、取得することができてとても幸運に思っています。

会社員になって

造園・緑化の業界に仲間入りして初めて、樹木医の知名度と、その信頼度の高さに驚かされました。名刺に樹木医という表記を載せていると、樹木医に関連する内容

で初対面のお客様からもよく質問されることがあります。プロの人間からも大きな信頼と興味を寄せられる資格をもっているということに対して、責任とプレッシャーを感じました。学生時代に樹木医の資格を取得した自分にとって、ほかの樹木医の方々に比べて実務の経験が不足していることは実感しています。一方で、樹木医であることで、若輩者の私に対してであっても大変信頼を寄せただけだと感じています。樹木医をきっかけに依頼いただけるメインの業務外の仕事や依頼事項も多くあります。それに応えるため、自分の持つ情報を整理し、新しく学ぶ機会が豊富に与えられているのだと思って現場の経験値を増やしていきたいと思っています。

これから

東邦レオ(株)に入社して、この4月で4年目を迎えます。2年目の秋には、自然再生士の資格を取得しました。現在、会社では一営業担当として、建築物の緑化を中心に、設計協力から資材の販売・工事納めに至るまで、広く緑化物件を扱う仕事をしています。

近年、オフィス・街路・駅舎など、住居に限らないあらゆる生活空間に豊かな居心地が求められる世の中になりました。緑もその中の大切な要素で、大きな街路樹の樹冠に覆われた涼しい道路や、さまざまな生物が息づく都市緑地などは、大都市空間の中で憩い、交流し、感性を養える場として注目されています。東邦レオ(株)も、都市空間に緑化資材を提供してきた立場を発展させて、今、「暮らし」という要素に目を向けています。

樹木医や自然再生士には、人々が都市で心身共に豊かな暮らしをおくるため、緑地の適切な設計施工や管理・活用の方法について研究し、継承してゆく役割があると思います。その一員である私自身も、正しい技術と専門知識を磨き、活かせる場面を常に探し続ける意識を忘れずにいたいと思っています。